

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業報告書

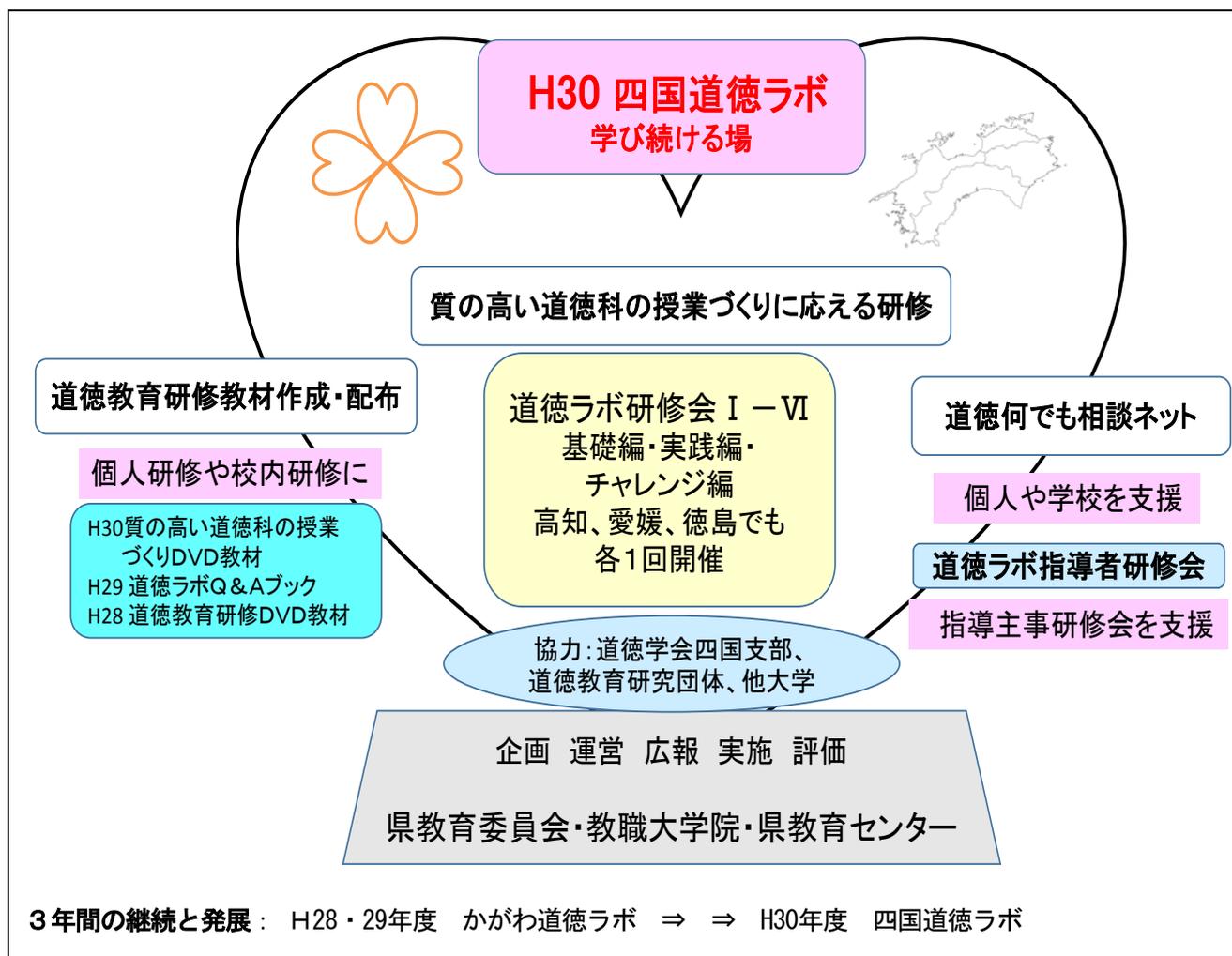
プログラム名	質の高い道徳科の授業づくりを支援する研修プログラムの開発 ～「四国道徳ラボ」を核として～
プログラムの特徴	<p>道徳教科化にあわせて、質の高い道徳科の授業づくりに資する高度な資質能力の育成をねらうプログラムである。概要は、各回の四国道徳ラボ研修会において、研修の内容構成をできる限り3層としてきた。</p> <p>3層とは、授業づくりの①基礎編、②実践編、③チャレンジ編である。内容や教材に応じて演習等を取り入れて、具体的な授業づくりのポイントを学びながら、ステップアップできる研修である。例えば、一回3時間の研修のスタートは、基礎編から、そして実践編、最後にチャレンジ編と展開するイメージである。そのような構成の意図は、解説をしっかりと読めていない先生方も参加している状態であり、授業に焦点をあてて、基本的なことから実践につながるように計画することで、道徳科のめざす授業像を意識しながら力量形成を図っていきたいと考えた。</p> <p>基礎編：解説に示されている指導方法の工夫を理解し基礎的な力量を形成、 実践編：具体的にどのように実践につなげるのかをイメージできるように実践発表や実践報告、シンポジウム等を通して実践力の形成、 チャレンジ編：実践につなげるための校内での具体的な発問や板書検討の研修の在り方に関して演習的に学び、多様な展開や実践につながる応用力につなげるため力量の形成、を意識して実施してきた。</p> <p>また、平成28、29年度の「かがわ道徳ラボ」から「四国道徳ラボ」として発展させるとともに、道徳教育に関する学びのネットワークの拡充につながるように互いの県を中心として活躍している先生方の関係づくりも意識して、情報交換の時間設定等に取り組んできた。</p> <p>そして、「質の高い道徳科の授業づくりDVD教材」を作成し参加希望者や全国の教職大学院等に配布することで、校内研修や個人研修等に有効に活用できるようにしてきた。このような様々に学び合う場としての「四国道徳ラボ」に取り組むことで、スローガンとした「質の高い道徳科の授業づくり応える研修」の場づくりに取り組んできた。</p> <p>本事業は、香川大学教職大学院、香川県教育委員会、香川県教育センターの連携・協働のもとに実施してきたが、前述のような拡充を効果的にするために四国内の道徳教育に関する研究団体や学会の四国支部とも連携を図りながら、より広範囲に周知・啓発して、協力を得てきた。</p>

平成31年3月

機関名  
香川大学教職大学院

連携先  
香川県教育委員会・香川県教育センター

## プログラムの全体概要



### 1 開発の目的・方法・組織

#### ① 開発の目的

道德教科化にあわせて、質の高い道德科の授業づくりに資する高度な資質能力の育成をねらうプログラムである。概要は、各回の四国道德ラボ研修会において、研修の内容構成をできる限り3層としてきた。

3層とは、授業づくりの①基礎編、②実践編、③チャレンジ編である。内容や教材に応じて演習等を取り入れて、具体的な授業づくりのポイントを学びながら、ステップアップできる研修である。例えば、一回3時間の研修のスタートは、基礎編から、そして実践編、最後にチャレンジ編と展開するイメージである。そのような構成の意図は、解説をしっかりと読めていない先生方も参加している状態であり、授業に焦点をあてて、基本的なことから実践につながるように計画することで、道德科のめざす授業像を意識しながら力量形成を図っていきたいと考えた。そして、「質の高い道德科の授業づくりDVD教材」を作成し参加希望者や全国の教職大学院等に配布することで、校内研修や個人研修等に有効に活用できるようにしてきた。このような様々に学び合う場としての「四国道德ラボ」に取り組むことで、スローガンとした「質の高い道德科の授業づくり応える研修」の場づくりに取り組んできた。

#### ② 開発の方法

教職大学院の道德教育担当に関わる4名の教員と県教育委員会や県教育センターの道德教育担当指導主事が、互いの研修や講義等の現状と課題を情報交換したり、研修の内容と方法を繰り返し打ち合わせしたりすることが何より重要であった。具体的には、質の高い道德科の授業づくりを支援する研修プログラムとして、以下のア〜エの4点に取り組んだ。

ア 道徳科における質の高い授業づくりに関する「四国道徳ラボ研修会」の実施

・土曜日の午後を活用した四国道徳ラボ研修会：6月、7月、10月上・下旬、12月、2月の土曜日に実施  
・昨年度までの道徳ラボ研修会に参加者の声に応える内容や参加者のニーズに応えられるように配慮した。研修内容について、昨年度の反省や参加者の声に応える今年度の工夫として、基礎編、実践編、チャレンジ編の位置付けについても共通理解を図りながら展開してきた。

イ 教員の指導力向上を図る「質の高い道徳科の授業づくりDVD教材」の作成・配布

また、本研修プログラムに参加できなくても、校内研修や個人研修等で活用できる「質の高い道徳科の授業づくりDVD教材」にまとめて、各学校等へ提供する。

ウ 道徳ラボ指導者研修会の実施

香川県内の指導主事を対象とした道徳の教科化に関する基本的事項の確認や学校訪問等で出された質問等について協議するなかで、指導主事としての道徳の教科化に関する指導力の向上につなげてほしい目的で、指導主事会と連携をして平成28年度から実施している。限られた時間だが、基本的事項のミニ講義を行い、その後グループで出された主な質問に教職大学院の担当教員が可能な範囲で答えていった。

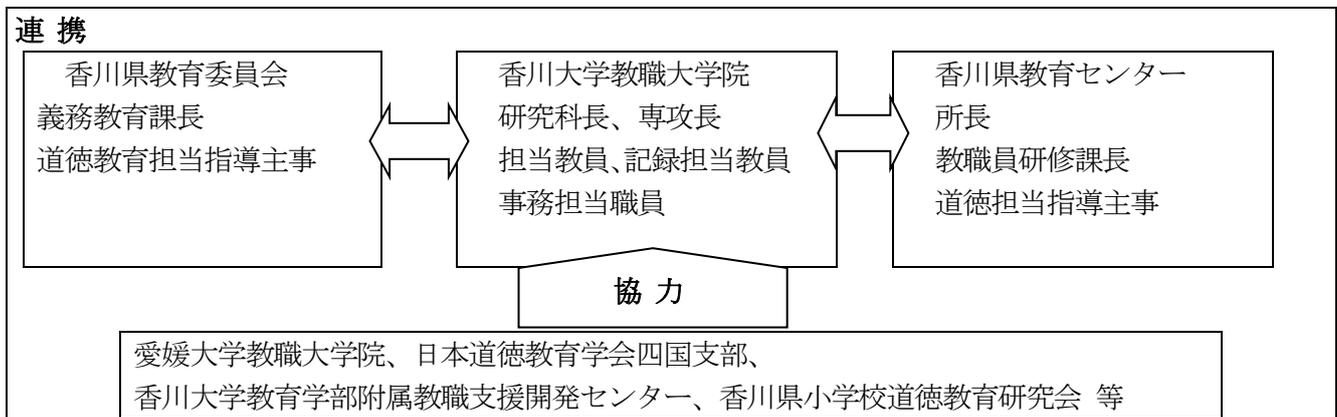
エ 相談や質問への対応と支援～道徳教育何でも相談ネット～

教科化に伴う学校現場や教員個人の不安や悩み等に答えるために、電話やメール、FAX、来訪等による対応を行う「道徳教育何でも相談ネット」を実施してきた。県内外から、道徳教育の教科化や学校での道徳の授業づくり等に関する相談や質問等が寄せられる。方法として、電話、大学への直接訪問、電子メールでのやりとり、個別質問時間の活用、道徳に関する研修会の休憩や終了後、等多様である。

③ 開発組織

ア 組織体制

本事業は、香川大学教職大学院、香川県教育委員会、香川県教育センターの連携・協働のもとに実施してきたが、四国道徳ラボとして拡充するために四国内の道徳教育に関する研究団体や学会の四国支部とも連携しながら、より広範囲に周知・啓発して、協力を得てきた。



特に、平成28、29年度の「かがわ道徳ラボ」から「四国道徳ラボ」として発展させるとともに、道徳教育に関する学びのネットワークの拡充につながるように、四国各県の道徳教育の中心として活躍している先生方の関係づくりも意識して、情報交換の時間設定等に取り組んだ。

また、実際の事業の運営では、香川県教育委員会による道徳教育研究指定校や香川県小学校道徳教育研究会等の協力も得ながら実施できた。

イ 組織委員

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	香川大学教育学部 教授	毛利 猛	総括責任者	学部長 専攻長            附属坂出小学校
2	教授	有馬 道久	事業統括	
3	教授	植田 和也	プログラム開発チーフ	
4	教授	齋藤 嘉則	プログラム企画・立案・実施	
5	准教授	山本木ノ実	プログラム企画・立案・実施	
6	准教授	金綱 知征	プログラム企画・立案・実施	
7	准教授	大熊 裕樹	プログラム企画・立案・実施	
8	准教授	清水 顕人	プログラム企画・立案・実施	
9	特命教授	野村 一夫	プログラム企画・立案・実施	
10	特命教授	津山 勝義	プログラム企画・立案・実施	
11	准教授	松下 幸司	撮影記録	
12	教育学部事務課長補佐	中島 直子	関係機関との連絡・調整	
13	教育学部学務係専門職員	入江 一之	会計・資料保管	
14	教育学部学務係主任	松井 梨奈	開催に係る事務作業	
香川県教育委員会				
15	義務教育課長	小柳 和代	事業全体の企画・評価	
16	主任指導主事	中田 祐二	プログラム企画・立案・実施	
香川県教育センター				
17	所長	真鍋 佳樹	事業全体の企画・評価	
18	教職員研修課長	齋藤 浩	連携協議・評価	
19	主任指導主事	浅野 正敏	プログラム企画・立案・実施	
20	指導主事	芳我 清加	プログラム企画・立案・実施	

\* 2-10の教員は教職大学院担当

ウ 協議会や打ち合わせ等

3・4月においては県教委や県教育センター等を訪問し、事前協議や打ち合わせを実施し、全体の計画と内容の調整を図ってきた。その後、下記のように連携協議会や打ち合わせを組織委員としての香川大学教職大学院、香川県教育委員会、香川県教育センターの担当者を中心に実施してきた。下記以外にも担当者間で詳細な準備の打ち合わせ等を、メール審議や電話でその都度実施している。

【担当者間の打合せ会】 平成30年5月11日、6月23日、9月25日、平成31年1月9日

上記の担当者間の打ち合わせをもとに、研修プログラム連携協議会（組織委員：香川大学、香川県教育委員会、香川県教育センター）を下記の通り開催した。

【第1回連携協議会 平成30年6月1日】 プログラム全体の年間予定、運営面の役割分担

本協議会の組織体制及びプログラムの年間予定を確認し、運営面の役割分担について、評価とH31年度以降の継続について見通しについて協議した。また、6～10月実施の具体的な研修についても確認した。作成予定のDVD教材についても意見を交わした。

【第2回連携協議会・中間報告会 平成30年11月27日】 活動の中間報告

実施状況について、参加人数や内容に対する反応、今後の実施予定の「四国道徳ラボ研修会」の案内状配付状況の確認と、研修プログラム全体の進捗状況やDVD教材の撮影予定について協議、確認した。

【第3回連携協議会・評価委員会 平成31年2月28日】 今年度の活動報告と評価

研修プログラムの評価及び次年度以降について、学校現場の道徳教科化への対応や状況等を踏まえて検討した。また、3月に完成予定のDVD教材の発送予定について報告した。

【学会四国支部との打合せ会】 平成30年6月（1回）、7月（1回）、10月（1回）

\* 愛媛大学教職大学院支援事業担当者との四国道徳ラボIVの共同開催に関する打合せについては、メールや電話でその都度実施した。

## 2 開発の実際とその成果

### ① 研修の背景やねらい

今年度は、質の高い道徳科の授業づくりに資する高度な資質能力の育成をねらう研修プログラムを目指してきた。また、昨年度までの参加者をみると、新規採用者から管理職まで幅広いため、研修の構成を可能な範囲で3層として、授業づくりの①基礎編、②実践編、③チャレンジ編を設定してきた。そのことで、学習指導要領解説の基本的事項を確認しながら、具体的な授業の実践につなげていきたいと考えたからである。

例として、6月の第1回目に開催した「四国道徳ラボ研修会Ⅰ」の内容を案内状から一部抜粋して次頁に示した。基礎編では、学習指導要領解説の内容をもとに、基礎的事項の確認として、道徳科で示された目標の理解、内容項目の理解を踏まえて指導方法を工夫してほしい等について説明した。その後、具体的な実践事例の発表をもとに協議して、助言をいただいた。最後に、チャレンジ編として、授業の中でも重要な鍵となる発問に焦点をあてて、演習的な活動を取り入れた。その際に、参加者がこれなら校内研修でもできそうだ、やってみたく感じられるように時間の設定や取組の手順を分かりやすく示す等、工夫を行った。

#### (例) 6月に実施した平成30年度四国道徳ラボ研修会Ⅰの案内状より (一部抜粋)

日時：平成30年6月23日(土) 13:15-16:45 場所：香川大学教育学部 教授法演習室  
 13:15~13:25 開会挨拶 日程説明等  
 13:25~14:15 基礎編「道徳科の授業づくりに係る基礎的事項の確認」 植田 和也(香川大学)  
 14:25~15:25 実践編「道徳科の実践より」 実践発表 清水 颯人(附属坂出小学校)  
 助言 七條 正典(高松大学) 金網 知征(香川大学)  
 15:35~16:45 チャレンジ編「校内研でやってみよう 発問づくり」 進行 植田和也(香川大学)  
 小学校担当：七條 正典(高松大学) 中学校担当：植田和也

### ② 研修の実施内容(実施時期、対象人数、会場、日程、内容等)

前述の背景やねらいを受けて、下記の「四国道徳ラボ研修会」を6回実施した。

研修名 日時	講師、提案者等 (敬称略)	参加人数	会場	内容・日程	備考
道徳ラボ研修会Ⅰ H30. 6. 23 13:00-17:00	七條正典 清水颯人 金網知征 植田和也	82人	香川大学	指導方法の基礎基本、 中心発問、	
道徳ラボ研修会Ⅱ in 高知 H30. 7. 14 13:00-17:00	浅見哲也 植田和也 小島啓明 吉原聖人 中田 百香 阿部利幸	63人	高知大学	道徳科の授業改善、基 礎基本と評価	(道徳学会四国支 部との共催)
道徳ラボ研修会Ⅲ H30. 10. 6 13:00-17:00	柴原弘志 田邊重任 植田和也 大熊裕樹 野村一夫 金網知征	99人	香川大学	多様な指導方法の実 践、板書構成の検討	
道徳ラボ研修会Ⅳ in 愛媛 H30. 10. 27 13:00-17:00	城戸 茂 七條正典 竹田敏彦 坂井親治 金網知征 植田和也	101人	松山市教 育研修セ ンター	いじめ問題と道徳科の 授業づくり、	(愛媛大学教職大 学院との共催)
道徳ラボ研修会Ⅴ H30. 12. 15 13:00-17:00	木下美紀 森有希 小林 園 有馬葉子	104人	香川県 教育セン ター	質の高い授業づくり 模擬授業、演習・講 演、	
道徳ラボ研修会Ⅳ in 徳島 H31. 2. 16 13:00-17:00	澤田浩一 七條正典 田邊重任 山本木ノ実	67人	鳴門教育 大学	道徳科での個への支援 や配慮、対談、 講演	(道徳学会四国支 部との共催)

### ③ 各研修項目の配置の考え方

前述のような背景やねらいをもとに、研修内容については、昨年度の反省や参加者の声に応えられるように強

く意識した。そのうえで、今年度の工夫として、基礎編、実践編、チャレンジ編を位置付けて展開してきた。主ないくつかの例を下記に紹介する。

特に今年度は、授業づくりということで、参加者が抱く「研修での学びを授業に生かしたい」という実践に近づきたいといったニーズに応えるために、自分の勤務校でもやってみたいと思えるチャレンジ編として、例えば、6月には中心発問に、10月には板書構成に焦点を当てて、12月には模擬授業を通して、校内研修等で活用できる演習を配置してきた。

#### 研修内容に基礎編、実践編、チャレンジ編の位置付け（一部抜粋）

**基礎編：**総則や解説特別の教科道徳の基本的事項をもとに是非、理解してほしい内容をもとに構成

- 研修会Ⅰ「道徳科の授業づくりに係る基礎的事項の確認」
- 研修会Ⅱ「授業改善に係る基礎的事項の確認」
- 研修会Ⅳ「いじめ問題に関する道徳教育での基本的な確認」
- 研修会Ⅵ「道徳科における困難さに応じた支援」

**実践編：**道徳科の実践をもとに学んだり、授業づくりのイメージが広がったりする内容をもとに構成

- 研修会Ⅰ「道徳科の実践より」
- 研修会Ⅱ 実践報告・ディスカッション「道徳科1年目の実践から～教科化への対応と工夫～」
- 研修会Ⅴ「道徳科における太田南小学校での取り組み」、
- 研修会Ⅵ 対談「道徳科全面実施への期待～授業づくりについて考える～」

**チャレンジ編：**個人や校内研修で取り組んでみようと思える内容を演習的活動に取り入れて構成

- 研修会Ⅰ「校内研でやってみよう 発問づくり」
- 研修会Ⅲ「校内研でやってみよう 板書構成の検討」
- 研修会Ⅴ 模擬授業・講演「祝！道徳科元年 授業づくりで大切にしたいこと～『心と心のあく手』の授業を通して～」

#### ④実施上の留意事項

前述の配置の考え方が生かせるように次のような点で留意した。まず、実施内容である。参加者が深い理解を得るためにも、前提となる基礎的な事項の確認が重要となるので、授業づくりに関わる学習指導要領解説や専門家会議報告等の資料を分かりやすく説明できる時間を短くても基礎編として、前半部分に位置づけた。そのような考え方は、校内研修や個人研修等で活用できる「質の高い道徳科の授業づくりDVD教材」の作成においても、基礎編、実践編を意識して作成してきた。若年の先生や道徳担当ではない先生方も一部参加して下さっていたので、教科化に係る基礎的な事項や用語等の確認にも配慮した。

次に、演習に関する時間配分、班編制、準備物である。演習で各自が主体的に取り組めるような班編制や時間配分は重要な鍵である。演習の時間設定に苦慮した。参加者の短すぎず、長すぎずという感覚をどのように捉えるかを事前に何度も議論した。そして、スムーズに活動ができるために各班による準備物である。当日の参加人数が事前に把握できていたので、当日参加者を想定して机の配置、模造紙・付箋紙・マジック等の各班で使用準備物を揃えておくこと、つまり、研修でどのような形態になるのか、参加人数を想定して演習で準備物を用意した。6回実施した「四国道徳ラボ研修会」の内容や時間配分は次頁の通りである。使用教材としては、各回とも使用する資料（PPT資料等も含む）を参加者に配布して実施した。なお、使用した配布資料は、別ファイルに閉じて保管している。

#### ⑤研修の評価方法、評価結果

評価方法として、参加者に参加回数、内容、昨年度のQ&Aの活用状況等、について回答を求めた。各回とも内容には大変高い満足度を得られたが、時間や内容等に次回への要望も見られた。

次頁より四国道徳ラボ研修会Ⅰ～Ⅵの具体的な内容について、実施要項をもとに簡単に記載する。続けて、各研修会で参加者に実施したアンケート結果を各回毎に示す。

**平成30年度四国道徳ラボ研修会Ⅰ 「発問について考える」**

日時：平成30年6月23日（土）13:15-16:45

場所：香川大学教育学部 教授法演習室

13:15～13:25 開会挨拶 日程説明等

13:25～14:15 基礎編「道徳科の授業づくりに係る基礎的事項の確認」植田 和也（香川大学）

14:25～15:25 実践編「道徳科の実践より」

実践発表 清水 颯人（附属坂出小学校）

助 言 七條 正典（高松大学）金綱 知征（香川大学）

15:35～16:45 チャレンジ編「校内研でやってみよう 発問づくり」進行 植田 和也

小学校担当：七條 正典（高松大学） 中学校担当：植田和也

16:50 道徳研修等に関する情報提供

**平成30年度四国道徳ラボ研修会Ⅱ in 高知 「実践から授業改善について考える」**

日時：平成30年7月14日（土）13:20-17:00

場所：高知大学大学院 教職実践高度化専攻附属学校教育研究センター

13:25～ 基礎編「授業改善に係る基礎的事項の確認」植田 和也

13:40～ 実践編 各県からの実践報告・ディスカッション

実践報告テーマ 「道徳科1年目の実践から～教科化への対応と工夫～」

報告者（愛媛）鬼北町立広見中学校 小島 啓明、（香川）高松市立香西小学校 吉原 聖人  
（高知）南国市立岡豊小学校 中田 百香、（徳島）吉野川市立森山小学校 阿部 利幸

15:15～ 講演「道徳科における指導と評価」

講 師 文部科学省教育課程課 浅見 哲也 教育課程調査官

16:40～ 各県の道徳教育に関する情報交換

**平成30年度四国道徳ラボ研修会Ⅲ 「授業づくり ～指導方法、板書～ について考える」**

日時：平成30年10月6日（土）13:15-16:55

場 所： 香川大学教育学部 教授法演習室

13:25～15:25 基礎・実践編 シンポジウム「道徳科の授業づくりについて考える」

進 行 金綱 知征（香川大学）芳我 清加（香川県教育センター）

シンポジスト 田邊 重任（高知学園短期大学）

柴原 弘志（京都産業大学）

植田 和也（香川大学）

15:35～16:50 チャレンジ編「校内研でやってみよう 板書構成の検討」

進 行 小学校 大熊 裕樹・野村 一夫（香川大学）

中学校 植田 和也・金綱 知征（香川大学）

16:50 道徳研修等に関する情報提供

**平成30年度四国道徳ラボ研修会IVin 愛媛 「道徳教育・道徳科の授業からいじめ問題を考える」**

日時：平成30年10月27日（土）13:00-17:00

場所：松山市教育研修センター（まつラボ）3F大講義室

13:10 基礎編 「いじめ問題に関する道徳教育での基本的な確認」 香川大学 植田 和也

13:30 実践編 シンポジウム （進行）香川大学 齋藤 嘉則

テーマ 「いじめ問題を道徳教育から考える」

シンポジスト 安田女子大学 竹田 敏彦

西条市立小松幼稚園 坂井 親治

香川大学 金綱 知征

15:15 対談 テーマ「いじめ問題について考える～生徒指導・道徳教育の視点から～」

登壇者 高松大学 七條 正典 & 愛媛大学 城戸 茂

聞き手 愛媛大学 藤原 一弘

**平成30年度四国道徳ラボ研修会V 「実際の授業づくりを通して学ぼう」**

日時：平成30年12月15日（土）13:00-16:55 場所：香川県教育センター

13:05～13:25 報告「四国道徳ラボ研修会の取組について」 香川大学 植田 和也

助言 独立行政法人教職員支援機構 研修プロデューサー小林 園

13:25～13:45 実践編「道徳科における太田南小学校での取り組み」

高松市立太田南小学校 有馬 葉子

13:50～15:15 実践編・チャレンジ編 模擬授業・講演

「祝！道徳科元年 授業づくりで大切にしたいこと

～「心と心のあく手」の授業を通して～」

福岡県新宮町立新宮北小学校 木下 美紀

15:25～16:45 実践編・チャレンジ編 講演・演習

「質の高い道徳科の授業づくりをめざして」

高知大学 森 有希

**平成30年度四国道徳ラボ研修会VIin 徳島 「一人一人の個に応じた心に響く授業づくり」**

日時：平成31年2月16日（土）13:15-17:00 場所：鳴門教育大学

13:25～ 基礎編「道徳科における困難さに応じた支援」 山本 木ノ実（香川大学）

13:45～ 実践編 対談「道徳科全面実施への期待～授業づくりについて考える～」

七條 正典（高松大学）& 田邊 重任（高知学園短期大学）

進行・聞き手 植田 和也（香川大学）

15:00～ 実践編 ポスター発表 近藤 広理・廣瀬 美由紀（香川大学教職大学院生）

15:15～ 講演「道徳科に求められる指導と評価について」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 澤田 浩一 教科調査官

16:35～ 各県の道徳教育に係る情報交換 進行 植田 和也

## ●平成 30 年度四国道德ラボ研修会 I

日時：平成 30 年 6 月 23 日（土）13:15—16:45 場所：香川大学教育学部 教授法演習室

参加者数：82 名（県内学校（小・中・高・その他）41 名，県外学校 14 名，県内教育機関 11 名，  
 県外教育機関 2 名，本学院生 1 名，他（学部生・本学教員など）13 名）

アンケート結果（55 名分）：

<p>1. 平成 28 年度や 29 年度の道德ラボにも、参加されましたか。</p>	<p>平成 28 年度、29 年度も参加した…… 10 名                  平成 28 年度のみ参加した…… 0 名                  平成 29 年度のみ参加した…… 16 名                  初めての参加である…… 29 名</p>
<p>2-1. 本日の内容について</p>	<p>参考になった…… 52 名                  どちらかという参考になった…… 1 名                  あまり参考にならなかった…… 0 名                  参考にならなかった…… 0 名</p>
<p>2-2. 参考になった点を教えてください。 （複数回答可）</p>	<p>基礎編：授業に係る基礎的事項の確認…… 43 名                  実践編：道德科の実践より…… 49 名                  チャレンジ編：校内研でやってみよう発問づくり…… 43 名                  その他・授業実践を通して、児童の自分の考えがふりかえりでもう変わったか、よく分かりました。チャレンジ編の発問づくりが大変勉強になりました。                  ・チャレンジ編の中で実際の発問を考えることができたことはとても参考になり、校内研修でもぜひさせていただきたいと思います。                  ・チャレンジ編は非常に難しい教材だったのですが、いろいろな扱い方があることを学べ、まさに目から鱗！「主人公にどうしてほしいですか」という問いがあることを初めて知りました。大切な点を確認できました。</p>
<p>3-1. 昨年度の「かがわ道德ラボ Q&amp;A」について</p>	<p>校内で活用した…… 6 名                  個人的に読んだり活用したりした…… 25 名                  学校に届いていたかもしれないが、見ていない、活用していない、知らなかった…… 19 名</p>
<p>3-2. 昨年度の「かがわ道德ラボ Q&amp;A」、内容についてはいかがでしたか。</p>	<p>具体的で分かりやすかった…… 30 名                  研修等で使いやすかった…… 8 名                  解説等の説明や参考頁がよかった…… 19 名                  表現が難しかった…… 0 名                  あまり参考にならなかった…… 0 名                  参考にならなかった…… 0 名                  その他 ・Q&amp;A というのは時間がない人も必要なところから読めるのがよい。                  ・大変すばらしい資料です。</p>

## ●主な意見や感想

- ・何よりも道德教育に向けての熱が高まりました。来週からの道德に活かします。
- ・七條先生のあたたかい人間愛と深く心を、そして授業を吟味される姿勢にいつも感動しています。子どもがよりよく考え、結論に至る過程を授業で大切にしたいと強く思いました。植田先生の「多面的な考えを認めつなげていく」納得できる説明と進行が勉強になりました。今後ともご指導をお願いいたします。
- ・指導案をかくとき、1番悩むのが発問であります。今日の道德ラボで道德の授業づくりの基礎基本やねらいに迫る発問の大切さがよくわかりました。
- ・発問を考えるのが大変難しいと感じた。一人でいろいろと考えるのではなく、学校で学年用とかで考えると教材の読みも深まると思う。今後、実践したい。
- ・全て良かったですが、チャレンジ編がとても勉強になり、授業に生かしたい思いました。またお願いしたいです！
- ・七條先生の最後の演習の総括が大変分かりやすく、さすが！と思いました。
- ・ねらいに迫った中心発問を考えるためには子どもの言葉で反応を予想すること、また中心発問で深く考えさせるためには基本発問で吟味する必要があるという大切なことをおしえていただきました。
- ・討議ではいろいろなアプローチの仕方を見られてよかった。七條先生のご指導も大変参考になりました。
- ・チャレンジ編はすごくおもしろかった。道德終わった後にいろいろ言うことはあっても一緒に教材研究する場がないので大変有り難い。
- ・参加者のニーズに合わせて、分かりやすく説明して下さい、道德科の基本や中心発問の設定など大変参考になりました。
- ・いろいろなことが整理されて、また授業をがんばろう！という気持ちになりました。
- ・昨年度の理論編から今年度の授業につながり、とても有意義な研修になりました。
- ・若年の先生と参加し、校内で広げていくこと実践を着実にしていくことを確認し合えた。

## 四国道德ラボ研修会 I 2018.6.23 (土)での研修の様子



## ●平成 30 年度四国道徳ラボ研修会 II in 高知

日時：平成 30 年 7 月 14 日（土）13:20—17:00 場所：高知大学

参加者数：63 名（県内学校（小・中・高・その他）6 名，県外学校 34 名，県内教育機関 1 名，県外教育機関 16 名，本学院生 1 名，他大学院生 1 名，その他（学部生・本学教員など）4 名）

アンケート結果（46 名分）：

<p>1. 平成 28 年度や 29 年度の道徳ラボにも、参加されましたか。</p>	<p>平成 28 年度、29 年度も参加した…… 9 名 平成 28 年度のみ参加した…… 3 名 平成 29 年度のみ参加した…… 8 名 初めての参加である…… 2 3 名</p>
<p>2-1. 本日の内容について</p>	<p>参考になった…… 4 4 名 どちらかという参考になった…… 1 名 あまり参考にならなかった…… 0 名 参考にならなかった…… 0 名</p>
<p>2-2. 参考になった点を教えてください。 (複数回答可)</p>	<p>基礎的事項確認： …… 3 1 名 実践報告： …… 3 3 名 講演： …… 4 4 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浅見先生のお話にてテープレコーダーを持って来ればよかったなあと思いました。本当にとっても勉強になりました。やはり原点をしっかりと把握せねばと痛感させられました。</li> <li>・ 特に浅見先生のお話が分かりやすかった。最初から最後までストーリーがあり、ずっと頭に入った。</li> <li>・ 新学習指導要領を踏まえて、どう採択するか、どう評価するか、悩んでいたが、小中学校の実践、浅見先生のお話で理解が深まった。植田先生のお話で学校として取り組む事の大切さも改めて確認することができた。</li> <li>・ 自校で紹介し、全校教職員で共有させていただきます。</li> </ul>
<p>3-1. 昨年度の「かがわ道徳ラボ Q&amp;A」について</p>	<p>校内で活用した…… 2 名 個人的に読んだり活用したりした…… 1 6 名 学校に届いていたかもしれないが、見ていない、活用していない、知らなかった…… 2 1 名</p>
<p>3-2. 昨年度の「かがわ道徳ラボ Q&amp;A」、内容についてはいかがでしたか。</p>	<p>具体的で分かりやすかった・ 1 9 名 解説等の説明や参考頁がよかった…… 1 1 名 あまり参考にならなかった…… 0 名</p> <p>研修等で使いやすかった…… 4 名 表現が難しかった…… 0 名 参考にならなかった…… 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会に行けなかったため、その資料も入れていて嬉しかったです。</li> <li>・ 内容については実用的ですばらしいと思いました。活用しています。</li> <li>・ 分かりやすく活用しやすく思います。</li> </ul>

## ●主な意見や感想

- ・大変分かりやすいご講義でした。本日も次への力になるお話が聞けました。
- ・道徳の授業で子どもの姿をしっかり見ていきたいと思います。
- ・ご実践のご報告を教えていただき、質問は一つ一つに対して時間があるといいなあと少し思いました。今日、参加させていただきありがとうございました。
- ・たくさん学ばせていただき、ありがとうございました。
- ・浅見先生のお話がとても分かりやすく心に残りました。子ども達と道徳の授業を楽しみたいと思います。
- ・素晴らしい学習会でした。今日学んだことを当分のわたしの「問い」として考えていきたいと思います。
- ・有意義な時間となりました。今後に活かしていきます。毎回大変勉強になります。
- ・いすが気持ちよかったです。（座り心地がよかった）のでゆったりとした気持ちで快適にしっかり話を聞くことができました。
- ・講話では目に見える部分と目に見えない部分についてとても分かりやすい解説でした。校内研に取り入れたいです。
- ・浅見先生の評価について特に参考になりました。勉強になりました。

四国道徳ラボ研修会Ⅱ in 高知 2018.7.14（土）での研修の様子



## ●平成 30 年度四国道徳ラボ研修会Ⅲ

日時：平成 30 年 10 月 6 日（土）13:15—16:50 場所：香川大学教育学部 教授法演習室

参加者数：99 名（県内学校（小・中・高・その他）44 名，県外学校 13 名，県内教育機関 18 名，県外教育機関 3 名，本学院生 4 名，他大学院生 2 名，その他（学部生・本学教員など）15 名）

アンケート結果（69 名分）：

1-1. 平成 28 年度や 29 年度の道徳ラボにも、参加されましたか。	平成 28 年度、29 年度も参加した… 17 名 平成 28 年度のみ参加した… 1 名 平成 29 年度のみ参加した… 17 名 初めての参加である… 31 名
1-2. 平成 30 年度は 3 回目ですが、何回目の参加でしょうか。	初めての参加… 32 名 2 回目… 28 名 毎回参加の 3 回目… 9 名
2-1. 本日の内容について	参考になった… 64 名 どちらかという参考になった… 1 名 あまり参考にならなかった… 0 名 参考にならなかった… 0 名
2-2. 参考になった点を教えてください。 (複数回答可)	基礎編、実践編：シンポジウム… 67 名 チャレンジ編：校内研でやってみよう板書、発問づくり… 61 名 四国内の道徳研修等に関する情報提供… 15 名 掲示物等の資料… 25 名 その他：いろいろな方との話し合いが楽しかった。対話はおもしろい！ ・基礎編、実践編、チャレンジ編が相関していてよかった。 ・発問づくりは、なかなか校内でできないので、大変ためになりました。
3-1. 昨年度の「かがわ道徳ラボ Q&A」について	校内で活用した… 10 名 個人的に読んだり活用したりした… 36 名 学校に届いていたかもしれないが、見ていない、活用していない、知らなかった… 22 名
3-2. 昨年度の「かがわ道徳ラボ Q&A」は学校現場の先生方に「分かりやすく、具体的に」を意識して作成しましたが、内容についてはいかがでしたか。	具体的で分かりやすかった… 33 名 研修等で使いやすかった… 13 名 解説等の説明や参考頁がよかった… 20 名 表現が難しかった… 0 名 あまり参考にならなかった… 0 名 参考にならなかった… 0 名 その他：十分読めていないのでこれから活用していきたいと思います。

●その他、ご意見、ご感想等、ご自由にお書きください。

- ・とても実践的で現場の先生が「使える」研修会が成立していると思い参考になりました。
- ・大変勉強になり楽しかった。振り返りの視点ぜひ活用したいです。校内研の持ち方も参考になりました。

- ・お話を聞くのはもちろんですが、前回同様、演習は本当に力がつくのが実感できます。
- ・具体的な板書づくりなど実践に生かせる内容が大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・また授業で活かします。とてもよい時間でした。ありがとうございました。
- ・いつも楽しみにしています。勉強になります。ありがとうございました。
- ・皆さんの話が聞けて良かった。すごく勉強になりました。
- ・板書検討はいい勉強になりました。発問づくりの時の意見交換が大変参考になった。普段あまり議論する時間がとれないので校内研修ですぐに使える内容が多くてよかった。
- ・悩みの一つでもある板書構成について、一つの資料をもとに板書構成に対する色々な考え方、構成の仕方等に触れることができ良かったです。
- ・他の先生方から多くのことを学びました。有意義な時間をありがとうございました。
- ・いろいろな板書例が見られて勉強になりました。板書に対する評価をもっと詳しくしてほしい。
- ・「かがわ道徳ラボ Q&A」は、仲間の主事と活用させていただいています。

### 四国道徳ラボ研修会Ⅲ 2018.10.6（土）の研修の様子



## ●平成 30 年度四国道徳ラボ研修会IV in 愛媛

日時：平成 30 年 10 月 27 日（土）13:00—17:00 場所：松山市教育研修センター（まつラボ）

参加者数：101 名（県内学校（小・中・高・その他）4 名，県外学校 71 名，県内教育機関 0 名，

県外教育機関 9 名，本学院生 1 名，他大学院生 12 名，その他（学部生・本学教員など）4 名）

アンケート結果（51 名分）：

1-1. 平成 28 年度や 29 年度の道徳ラボにも、参加されましたか。	平成 28 年度、29 年度も参加した…… 5 名 平成 28 年度のみ参加した…… 0 名 平成 29 年度のみ参加した…… 5 名 初めての参加である…… 40 名
1-2. 平成 30 年度は 4 回目ですが、何回目の参加でしょうか。	初めての参加…… 40 名 2 回目…… 3 名 3 回目…… 4 名 毎回参加の 4 回目…… 1 名
2-1. 本日の内容について	参考になった…… 40 名 どちらかという参考になった…… 8 名 あまり参考にならなかった…… 1 名 参考にならなかった…… 0 名
2-2. 参考になった点を教えてください。 (複数回答可)	基礎編的事項の確認…… 28 名 シンポジウム…… 45 名 対談…… 32 名  その他：シンポジストの先生が話の中で「『いじめる側のメリットを上回る何かが大切』だということを考え抜かせてください」と言われましたが、それを含めた最初の提案であるともっとスッキリします。この言葉一番グッときました。
3-1. 昨年度の「かがわ道徳ラボ Q&A」について	校内で活用した…… 1 名 個人的に読んだり活用したりした…… 8 名  学校に届いていたかもしれないが、見ていない、活用していない、知らなかった…… 38 名
3-2. 昨年度の「かがわ道徳ラボ Q&A」、内容についてはいかがでしたか。	具体的で分かりやすかった…… 7 名 研修等で使いやすかった…… 0 名 解説等の説明や参考頁がよかった…… 4 名 表現が難しかった…… 0 名  あまり参考にならなかった…… 0 名 参考にならなかった…… 0 名

●その他、ご意見、ご感想等、ご自由にお書きください。

- ・「かがわ道徳ラボ Q&A」を校内の人にも紹介した。
- ・「かがわ道徳ラボ Q&A」を職場の方といっしょに開いて確認しています。いつも貴重な研修の場をつくってくださりありがとうございます。今回も中身の濃いお話が聞けました。
- ・本日は大変勉強になり実践する上で大切にしたい視点がありました。ありがとうございました。
- ・大変勉強になり、日々の私の指導の至らなさを痛感した。児童にエンパシーしながら、児童と共に学んでいきたいと思う。

# 四国道徳ラボ研修会Ⅲ 2018.10.27(土)での研修の様子



## ●平成 30 年度四国道徳ラボ研修会 V (in 香川県教育センター)

日時：平成 30 年 12 月 15 日 (土) 13:00—16:55 場所：香川県教育センター

参加者数：104 名 (県内学校 (小・中・高・その他) 40 名, 県外学校 16 名, 県内教育機関 12 名,

県外教育機関 8 名, 本学院生 5 名, 他大学院生 3 名, その他 (学部生・本学教員など) 20 名)

アンケート結果 (65 名分) :

1-1. どちらからご参加されましたか。	香川県内からの参加……………45名 四国内 (香川県以外) からの参加…16名 都道府県からの参加……………4名 (他県は岡山県等)
1-2. ご所属を教えてください。	小・中学校教員……………43名 本学教員……………2名 行政関係者……………8名 他大学教員……………2名 他大学学部生・院生……………2名 香川大学学部生・院生……………7名 その他……………1名
2-1. 平成 28 年度や 29 年度の道徳ラボにも、参加されましたか。	平成 28 年度、29 年度も参加した…22名 平成 28 年度のみ参加した…1名 平成 29 年度のみ参加した…16名 初めての参加である……………24名
2-2. 平成 30 年度は 5 回目ですが、何回目の参加でしょうか。	初めての参加……………21名 2 回目……………16名 3 回目……………17名 4 回目……………7名 毎回参加の 5 回目……………2名
3-1. 本日の内容について	参考になった……………61名 どちらかという参考になった…3名 あまり参考にならなかった…0名 参考にならなかった……………0名
3-2. 参考になった点を教えてください。 (複数回答可)	実践校の発表 (太田南小) ……49名 模擬授業・講演 (木下先生) ……61名 講演・演習 (森先生) ……56名
4. 大学と行政が連携をしながら取り組むこのような道徳関係の研修の機会があれば、今後も参加したいですか。	是非、参加したい……………52名 内容に興味があればたまには参加したい13名 土曜日が多忙なので参加できない…0名 教科化もスタートしたので今後は参加したくない……………0名 その他：これからの道徳の授業づくりを研究し、深めたいと思っているから。

### ●その他の主な意見や感想

- ・所属中学校で道徳が活性化するように声をあげていきたいと思った。貴重な時間を有り難うございました。
- ・模擬授業がとてもおもしろかったです。ぜひ次回もしていただきたいです。

- ・院生と現職教員が交流できる場があるといいなと思いました。理論と実践を本当の意味で往還するためにはこうした時間・場も必要かなと思います。
- ・特別に支援がいる児童・生徒への指導、特別支援学級の道徳の授業実践例を知りたいです。
- ・今回の木下先生の授業のように生徒の多面的多角的な思考をうながす発問の工夫、板書の工夫、ワークシートの工夫など具体例、学力が低い生徒、支援の必要な生徒の授業参加のさせ方支援の方法など学びたいです。いつも道徳ラボに参加するととても元気がでます。ありがとうございます。
- ・本日の模擬授業が大変参考になったので、また機会があったらぜひ参加したいです。本当に勉強になりました。演習、模擬授業は自分も参加して考えるので講演より学びになりました。「タッチ、アウト」今度、授業でやってみようと思います。
- ・森先生のご講演、演習では自分の道徳授業、道徳教育に対する考え方、指導の在り方について向き合い、問い直しをすることができました。新たな学びを得ることができました。ありがとうございました。
- ・子どもの心情をゆさぶる授業づくりをめざし、新しい手法やねらいの明確化に向けた取り組みを獲得したい。自分としてもいろいろと引き出しを増やし、子どもの実態に応じた授業づくりをしていきたいと思う。
- ・授業の展開例を考える、模擬授業をグループでやってみる、などあると楽しそうです。いつも研修の機会をつくって下さり、ありがとうございます。今日も「ああそうか」「なるほど」と思うことがたくさんあった研修でした。ありがとうございました。
- ・すばらしい内容でした。たくさんの学びのある授業でした。講師の先生方、運営していただいた皆様、本当にありがとうございました。
- ・道徳ラボに参加するといつも、なるほど！と思うことがあります。今日は特に木下先生の模擬授業から自分の考えが深まっていくことを実感できました。これを子どもたちに自然とさせるような授業づくりをしていきたいです。ありがとうございました。
- ・今回のように、授業の取り組みについて、実践を具体的に教えていただきたいです。即、授業に生かせる内容がありがたいです。
- ・木下先生のような先生による模擬授業がありがたいです。普段、道徳の授業を見学できる機会が少ないので、お世話になりました。ありがとうございました。

#### 四国道徳ラボ研修会Ⅴ 2018.12.15（土）での研修の様子



## ●平成 30 年度四国道徳ラボ研修会VI in 徳島

日時：平成 31 年 2 月 16 日（土）13:15—17:00 場所：鳴門教育大学

参加者数：67 名（県内学校（小・中・高・その他）12 名，県外学校 41 名，県内教育機関 2 名，  
県外教育機関 2 名，本学院生 2 名，他大学院生 3 名，他（学部生・本学教員等）5 名

アンケート結果（45 名分）：

何県よりご参加されましたか。	香川県：11名 徳島県：22名 愛媛県：2名 高知県：7名 愛知県：1名 栃木県：2名
1-1. 平成 28 年度や 29 年度の道徳ラボにも、参加されましたか。	平成 28 年度、29 年度も参加した……9名 平成 28 年度のみ参加した……5名 平成 29 年度のみ参加した……4名 初めての参加である……24名
1-2. 平成 30 年度は 6 回目ですが、何回目の参加でしょうか。	初めての参加：24名 2回目：4名 3回目：5名 4回目：4名 5回目：4名 毎回参加の6回目：3名
2-1. 本日の内容について	参考になった……40名 どちらかという参考になった……2名 あまり参考にならなかった……0名 参考にならなかった……0名
2-2. 参考になった点を教えてください。 (複数回答可)	基礎編的事項の確認…31名 対談…41名 講演…41名 その他・澤田調査官のご講演が本当に心に残りました。いろいろな視点から学ばせていただきました。 ・山本先生のお話はよく分かり参考になった。各県の報告を詳しく伺いたかった。具体中心に構成してほしい。 ・対談でいろいろなお話ができてよかった。大変大切なことを分かりやすく体験談を深く学べました。
3-1. 昨年度の「かがわ道徳ラボ Q&A」について	校内で活用した……6名 個人的に読んだり活用したりした……12名 学校に届いていたかもしれないが、見ていない、活用していない、知らなかった……21名
3-2. 昨年度の「かがわ道徳ラボ Q&A」は学校現場の先生方に「分かりやすく、具体的に」を意識して作成しましたが、内容についてはいかがでしたか。	具体的で分かりやすかった…17名 研修等で使いやすかった……8名 解説等の説明や参考頁がよかった…9名 表現が難しかった……0名 あまり参考にならなかった……0名 参考にならなかった……0名 その他：すばらしい本で活用しやすいと思います。年計のねり方から授業の実際までとても便利だった。

## ●その他の主な意見や感想

- ・次年度も是非参加させていただきたいと思いました。大変お世話になりました。
- ・「かがわ道徳ラボ Q&A」を知らなかった。是非見たかった。来てよかったです。ありがとうございました。
- ・次年度からの教科科にあたり、不安に思う部分もありましたが、いろいろとお話しを聞きクラスの生徒たちの姿を思い浮かべ、道徳の授業を行うことが楽しみになりました。
- ・2/15 に愛媛大学附属中学校の公開研に参加した後、参加させていただきました。来年度は教科化一年目になりますので、発問や板書等細分化された研修会がいいと思いました。本日はありがとうございました。
- ・初めて参加しました。この会自体時初めて知りました。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・七條先生の道徳との出会いを伺い、さらに先生に親しみを感じてしまいました。澤田先生の言われた「子どものよさに気づけるのはあなたにそのよさがあるから」にとっても気持ちが温かくなりました。大変有意義でした。ありがとうございました。
- ・愛知県から参加させていただきました。大変勉強になり参加して良かったと思います。ありがとうございました。

## 四国道徳ラボ研修会Ⅵ in 徳島 2019.2.16（土）での研修の様子



## ⑥ 道徳ラボ指導者研修会

平成30年12月10日（月）に香川県教育センターで道徳ラボ指導者研修会を開催した。

この研修会は、香川県内の指導主事を対象とした道徳の教科化に関する基本的事項の確認や学校訪問等が出された質問等について協議するなかで、指導主事としての道徳の教科化に関する指導力の向上につなげてほしい目的で、指導主事会と連携をして平成28年度から実施している。限られた時間だが、基本的事項のミニ講義を行い、その後グループで出された主な質問に教職大学院の担当教員が可能な範囲で答えていった。各指導主事にとっては、道徳科の評価に関する学校の悩みや不安をその場で共有したり、基本的な確認を行ったりする時間となったようである。

事業内容	日時	開催場所	参加人数	対象
道徳ラボ指導者研修会	平成30年12月10日（月） 9:00～10:00	香川県教育センター	85名	県内指導主事

進行については下記のように進めた。

### かがわ道徳ラボ 指導者研修会      テーマ「道徳の教科化に関する基本的事項の確認」

香川県教育委員会事務局義務教育課と香川大学教職大学院の連携・協働により、道徳ラボ指導者研修会を下記の通り実施する。

日時 平成30年12月10日 9:00～10:00

場所 香川県教育センター

対象 香川県内の県、市町教委等の指導主事

講師 香川大学教職大学院 教授 齋藤嘉則、教授 植田和也、准教授 金網知征

#### ○ 講話及び協議について

##### ① 講話「道徳科に関する基本的事項の確認」

ミニ講話① 香川大学教職大学院 植田和也 道徳科に関する基本的事項の確認

ミニ講話② 香川大学教職大学院 齋藤嘉則 道徳科の評価、教科書の使用について

ミニ講話③ 香川大学教職大学院 金網知征 情報モラルに関する取組について

##### ② グループ協議 [義務教育課で司会]

「道徳の教科化に向けた課題について」

ミニ講話を受け、課題に思ったこと等、学校訪問等での悩みや質問をグループでまとめる。

##### ③ 意見交換…15分 [3先生に質問]

回答者 齋藤嘉則、植田和也、金網知征

・グループ協議で出た質問をもとに香川大学の教員が答える。

## ⑦ 道徳教育研修教材の3年間の計画的な作成と今年度の四国道徳ラボDVD道徳研修教材

今年度の実施内容のテーマである授業づくりに関して、DVD研修教材にまとめ、県内小中学校や全国の各教職大学院に配布し校内研修や個人研修等において有効に活用する。更に、日本教職大学院協会研究大会や道徳教育に関する学会や研究会等でも、四国道徳ラボDVD道徳研修教材の作成について、PRして活用したい希望者には完成後、送付したいと考えた。また、これまで平成28年度から、下記に示したように教科化の背景から、基本的事項の理解、道徳科の授業づくりと計画的に研修教材を作成してきた。

道徳教育研修教材の3年間の計画的な作成と配布・・・個人研修や校内研修に活用

H28 道徳教育研修DVD教材・・・教科化の背景や趣旨の理解に関する内容を研修材料として

H29 かがわ道徳ラボQ&Aブック・・・道徳科に関する基本的な内容や疑問を研修材料として

H30 質の高い道徳科の授業づくりDVD教材・・・授業づくりの基本的な内容を研修材料として

## ○ 撮影から完成までの経緯

撮影は9月25日、10月6日、12月15日、1月9日の4回に分けて行った。完成は平成31年2月末を予定し、各校・各大学院等への発送3月中～下旬を予定して取り組んできた。時間的な分量は、全体で約70～75分として、内容は大きく下記に示した15のチャプターとして構成した。

- 1 挨拶 はじめの説明
- 2 道徳科の授業における課題
- 3 授業づくりⅠ 基礎編
- 4 教材分析のポイント
- 5 発問づくりについて
- 6 多様な指導方法について
- 7 道徳科の評価について
- 8 配慮の必要な子どもへの支援、指導
- 9 配慮の必要な子供への具体的な事例
- 10 授業づくりⅡ チャレンジ編  
①情報モラルの授業について ②役割演技について ③道徳ノートの工夫
- 11 インタビュー編「質の高い授業づくりのために大切にしてほしいこと」Ⅰ、Ⅱ
- 12 子どもが主体的に学ぶ道徳科の授業づくりをめざして
- 13 管理職の皆様へ
- 14 まとめ
- 15 写真での道徳ラボ風景

なお、関係3団体の組織委員以外にも下記の外部講師の方にも撮影協力をいただいた。

撮影にご協力をいただきました外部講師の皆様（氏名五十音順）

福岡県新宮町立新宮北小学校 主幹教諭 木下美紀様 インタビュー編

高松大学 教授 七條正典様 子どもが主体的に学ぶ道徳科の授業づくりをめざして

京都産業大学 教授 柴原弘志様 インタビュー編

高知学園短期大学 教授 田邊重任様 インタビュー編

高知大学教職大学院 准教授 森 有希様 インタビュー編

## ⑧ 継続的な取組による繋がりや学びの広まりと深まり

道徳ラボを継続してきたことでの様々な場での学びの広がりや深まりが多様な形で見られてきた。そのいくつかの事例を簡単に紹介する。

**事例1** 平成28年度の教職大学院生の置籍校がDVD教材を校内研修で活用 ⇒ 各教員の疑問や悩みを「道徳教育何でも相談ネット」を活用しやり取り ⇒ 複数の教員がH29かがわ道徳ラボに参加 ⇒ 夏休み校内研修を支援 ⇒ 平成30年度も継続的に参加

**事例2** 平成28年かがわ道徳ラボに参加 ⇒ 道徳ラボ研修資料を校内で活用 ⇒ 校内研修での反応や疑問を「道徳教育何でも相談ネット」を活用しやり取り ⇒ 道徳教育推進教師が他の複数教員とともにH29かがわ道徳ラボに参加 ⇒ H30当該校の研究授業に教職大学院生も参加し研修

**事例3** H29作成教材の「道徳ラボQ&A」を他県の指導主事さんが、研究指定校等へ紹介 ⇒ H30四国道徳ラボに参加 ⇒ 県を超えて道徳教育に関する情報交換と研修情報の共有ができるようになった。

## ⑨ 継続的に参加した教職大学院の院生の声

### 院生Aさん

講演や対談などでは、お話される方の道徳への強い想いを聴いたり感じたりすることができ、新たな視点からの刺激も多く受け、大変学び深いものがありました。模擬授業形式の授業づくりや、演習での板書づくりなどでは、具体的に授業のイメージをもちながら教材分析をすることができ、授業づくりの面白さを感じるとともに、実践への意欲が高まりました。

### 院生Bさん

学校現場での実践を念頭においた研修会であり、勉強になることばかりでした。例えば“30分でできる校内研修”という演習では、個人的に発問の工夫を学ぶことができたことに加え、道徳教育を充実させるための研修として所属校へ還元するという側面からも大変参考になりました。

## ⑩ 研修実施上の課題

### ○ 研修の時間配分

実施上の配慮事項でも記載したが今年度の基礎編、実践編、チャレンジ編の時間配分が大きな課題である。意図的に、班編制や準備物を工夫したが、特に演習の時間配分については、終了直後の参加者のアンケートには書かれていない直接的な声としては、もっと時間が欲しいという感じである。参加者の短すぎず、長すぎずという感覚をどのように捉えるかは難しい。ただ、学校現場でゆっくりと議論したり、一つの教材でじっくりと話し合ったりすることができにくい実態も複数名の参加者から聞かされた。そのような実態を踏まえて、次年度はより実践的な演習等に配慮していきたい。

## 3 連携による研修についての考察

### （連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等）

#### ○ 多様な連携の継続と広範囲の参加者への呼びかけ

昨年度までの「かがわ道徳ラボ」を「四国道徳ラボ」として拡大し実施してきた。そこで、香川県以外でも各1回ずつ行いうことができた。このこと自体は成果でもあり、継続していくことには課題もある。

例えば、① 他県のどの関係機関と連携を図るのか、② 広範囲の参加者が予想されるが、どのように研修会の案内を広報するのか、③ 継続的な案内の広報はできるのか、等である。

今年度の他県での開催は、他大学教職大学院や道徳教育関係の学会四国支部と共催して開催したり、道徳教育関係の研究団体等の協力も得て参加を呼びかけたりすることで、より多くの方に学びの機会を提供できた。本事業自体の連携先は、県教育委員会や県教育センターであるが、四国内の道徳教育に関する研究団体や学会の四国支部とも連携を図りながら、より広範囲に周知したり啓発したりしていくことを継続するのは容易ではない。四国道徳ラボの取組が、香川県だけでなく、四国内の道徳教育に関する学びのネットワークの拡充につながるように今後も寄与したいと考える。

#### ○ 継続的な連携により、作成教材が学校現場の研修等で活用しやすいものに

取組のまとめでもある作成教材が、学校現場のその時点でのニーズや困り感、校内研修や個人研修等での活用をイメージして創られることが重要である。そのためにも、教職大学院の教員だけでなく、構想段階から、県教育委員会や県教育センターの道徳担当指導主事とも、学校現場の様々なニーズや困り感を把握するように努めてきた。例えば、そのような点を意識して、平成28年度は、教科化への経緯や趣旨、改訂のポイントなどを中心として、DVD教材を作成した。さらに、平成29年度は道徳ラボ研修会内で「道徳何でもQ&A」を位置づけたり、電話やメール、FAX等でも質問を受け付けたりする「道徳何でも相談ネットワーク」を実施してきた。その成果としての教材「かがわ道徳ラボ Q&A ブック（H30年3月発刊）」を3月か

ら今年度にかけて配布して、活用の様子を聞いたり、可能であれば報告したりしていただいた。その2年間の取組を基盤として、今年度は授業づくりに関してのニーズが大きいと捉えて、「道徳科」の授業づくりに焦点をあてて、「平成30年度四国道徳ラボ DVD道徳研修教材」を作成することができた。3年間の継続的な連携が作成教材の内容構成や学校現場のニーズ把握にも役だったと感じている。

おわりに

### 「道徳ラボ」この3年間の歩みと邂逅

平成28年度から始動した「道徳ラボ」は教職員支援機構の支援を受けつつ平成30年度で3年目を迎えました。今年度は、「四国ラボ」となり、四国全体を拠点とした研究、研修体制を整えるに至っております。時折しもこの時期、小学校、中学校の「道徳の時間」が「考え、議論する道徳」を標榜する「特別の教科 道徳」（以後、「道徳科」という）として教科化されました。平成29年春から夏にかけて小学校道徳科の検定教科書が各採択地区で採択されております。小学校においては、平成30年4月から「道徳科」が実施されており、平成31年4月からは中学校においても完全実施される予定です。

まさにこの時期に、「道徳ラボ」は組織的、計画的、さらに、香川県教育委員会や香川県教育センター、学会四国支部など教育行政や学術的な団体との協同的な取り組みにより、広く研究と研修の場を多くの学校の先生方や学生に提供してきました。講師の先生方には、道徳担当の文部科学省教科調査官を中心に教科化や評価、教科書等に造詣の深い先生方を招聘して「教科化の本旨」の正確な理解を得ることを第一義とし、また、学校の道徳教育の充実に資する実践的な内容をも組み込んだ研究と研修の機会を提供してきました。

特に、平成30年度においては開催地区を高松市ばかりではなく、高知市、松山市、さらに徳島市、など四国全土に及び、内容も道徳科の授業づくりにつながる具体的な実践や事例を取り入れながらも、教育現場の喫緊の実践課題である「いじめ」や、配慮を要する児童生徒を対象とした道徳教育、さらに、教科化に伴う評価や授業そのものの進め方にかかわるものなど、広範な内容に取り組んできました。それらを基礎編、実践編、チャレンジ編として受講者にもできる限り分かりやすくかつ、ニーズに応じた内容となることを意識して取り組んできました。参加者一人一人のニーズに確実に応えようとして参りましたが、十分でなかった点については、次年度への課題として、より一層意識してまいりたいと思います。

この3年間の取り組みについては、前述のように「教科化の本旨」の理解を得るために、内容の工夫、講師陣の招聘、開催地区の広域化など教育委員会の研修事業を側面から強力に支援、補完することとともに、所謂、方法論などの実践のみに拘泥することなく学術的な内容も適切に配置したものとなっていることなどについても参加者をはじめ関係の皆様からも少なからず評価をいただきました。

このことはこの事業そのものが香川大学教職大学院を母体として企画、運営、実施されていることから、教職大学院の使命である、「実践と理論の架け橋」「実践と理論の往還」、さらに、「実践と理論の融合」を旨とした教職大学院設立の趣旨を「道徳教育」という分野において具現化した画期的なものであるとも考えることができます。これはひとつの出会い、邂逅ともいえることかもしれません。

以上、この3年間に及ぶ（独）教職員支援機構の支援事業として取り組んで参りました「道徳ラボ」の成果の一端を述べさせていただきました。最後に、これまで多くの関係機関の皆様に変えてお世話になりながら、「道徳ラボ」が継続できましたことに深く感謝を申しあげたいと存じます。

香川大学教職大学院 齋藤 嘉則  
植田 和也

#### 4 その他

[キーワード] 特別の教科 道徳、道徳教育、道徳の授業づくり、県教育センターとの協働、教職大学院、道徳研修教材「質の高い道徳科の授業づくりDVD教材」、四国道徳ラボ

[人数規模] D (補足事項 研修会は土曜日の午後開催、)

[研修日数(回数)] C (補足事項 道徳ラボ研修会6日、道徳ラボ指導者研修会1日)

#### 【問い合わせ先】

「国立大学法人 香川大学」

大学院教育学研究科高度教職実践専攻 〒760-8522 香川県高松市幸町1-1

教職大学院 教授 植田和也、学務係(教職大学院担当) 入江一之

TEL 087-832-1404

「香川県教育センター」

教職員研修課 主任指導主事 浅野正敏、指導主事 芳我清加

〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1

TEL 087-813-0955

#### 【担当者連絡先】

##### ●実施者 ※申請する大学名又は教育委員会名を記載すること

実施者名	国立大学法人 香川大学 大学院教育学研究科高度教職実践専攻	
所在地	〒760-8522 香川県高松市幸町1-1	
事務担当者	所属・職名	教育学部 学務係
	氏名(ふりがな)	入江一之(いりえ かずゆき)
	事務連絡等送付先	〒760-8522 香川県高松市幸町1-1
	TEL/FAX	087-832-1404
	E-mail	ljimsen@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

##### ●連携機関 ※共同で実施する機関名を記載すること

連携機関名	香川県教育センター	
所在地	〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1	
事務担当者	所属・職名	教職員研修課 主任指導主事 指導主事
	氏名(ふりがな)	浅野正敏 芳我清加
	事務連絡等送付先	〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1
	TEL/FAX	087-813-0955
	E-mail	kyoikucenter@pref.kagawa.lg.jp

## 平成30年度 かがわ道徳ラボ運営組織体制

### 香川大学教職大学院・教育学部

教授	毛利	猛
教授	有馬	道久
教授	植田	和也
教授	齋藤	嘉則
准教授	山本木ノ実	
准教授	金綱	知征
准教授	大熊	裕樹
准教授	清水	顕人
特命教授	野村	一夫
特命教授	津山	勝義
准教授	松下	幸司
教育学部事務課長補佐	中島	直子
教育学部学務係専門職員	入江	一之
教育学部学務係主任	松井	梨奈

### 香川県教育委員会

義務教育課長	小柳	和代
主任指導主事	中田	祐二

### 香川県教育センター

所長	真鍋	佳樹
教職員研修課長	齋藤	浩
主任指導主事	浅野	正敏
指導主事	芳我	清加

「平成30年度教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業」  
独立行政法人教職員支援機構委嘱事業

#### 実施報告書

質の高い道徳科の授業づくりを支援する研修プログラムの開発  
～「四国道徳ラボ」を核として～

香川大学教職大学院 香川県教育委員会 香川県教育センター  
平成31年3月

国立大学法人 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）  
〒760-8522 香川県高松市幸町1-1

編集事務局：植田和也研究室 TEL 087-832-1509（FAX兼）